

コラム／記事

日付：2020/7

[分かち合う世界へ]33 新型コロナ；価値観を見直す機会に・小沼廣幸（新潟日報 コラム 2020年7月）

いつも新型コロナウイルスの暗い話題ばかりでうんざりだよ。何か明るい話を聞きたいねーと言う友人に相づちを打ったが、気が付けば3回も連続で新型コロナのことばかりを書いていた。今月は何か楽しい話題を、と思い立ち試行錯誤を繰り返したが筆が進まない。そうしているうちに気になるニュースばかりが耳に入ってきた。

世界全体で1日当たりの新規感染者の数が6月の末に及んで最多記録を更新したという。感染が確認されてから6カ月以上も過ぎたのに、感染の拡大はとどまるところを知らない。世界の新型コロナによる死者の総計が50万人を超え、経済活動が再開されたアメリカの一部の州では感染者が記録的に増え続けている。南米に次いで南アジアで感染が急増している。

緊急事態宣言が解除され、多くの経済活動が再開された東京では、新規感染者が連日50人を超え、再び100人にも達した。ともかく暗い話ばかりだ。事実、新型コロナは6月に入り収束に向かうどころか、世界的にさらなるまん延をもたらしている。

その半面、欧米に倣いこの時とばかり、世界中で経済活動再開の動きが活発化している。人の命の大切さと経済復興の重要性を比べたら、人の命が大切なのは疑う余地はないだろう。経済はいつか再び復興できても、死んだ人の命は二度と戻らない。双方を尊重し両立できる接点はどこかにはあるはずだが、人の命という尊厳を軽視してまでも経済再建を急ぐ必要はないと思う。経済活動を優先するならば、有効なワクチンや薬、治療法が確立されてからにすべきではないのか。

そんなことを思いながら、日本から遠く離れたタイの首都バンコクで半ば閉じ込められたような生活を続けて、はや4カ月が過ぎた。1カ月以上、タイでは国内の市中感染がゼロの日々が続いている。それでも、タイ政府は6月29日に非常事態宣言の期限を1カ月延長して7月31日までとした。日本などと比べるとかなり慎重で用心深い政策だ。私は、新型コロナウイルスは人類に突き付けられた警告だと思っている。近代の人類の発展は経済活動を最優先するあまり、自然環境を破壊し、次世代に引き継がれ続けた文化遺産や伝統を軽んじ、人と人との和や自然界の生物との調和を軽視して来た。

その結果、個人の利益を追求し経済を牛耳る富める者たちが社会や政治を制覇し、気候変動に拍車をかけ、貧富の格差が当たり前のような社会を生んだ。こんな社会がSustainable（持続可能）であるはずはない。

人間が自分たちの力で矯正する能力を失った時に、目に見えない計り知れなく大きな力が現れ、われわれに軌道修正を強要する。それがこの新型ウイルスのような気がしてならない。人間が生きる根底にある価値観そのものを見直してみる機会ではないだろうか。